数理社会科学への招待

相互行為

君の一番大切にしたいことって何だろう。たとえば愛かも知れない。愛は差し当たり君が他者を大切にする行為である。その他者も時として君を大切にしてくれるかも知れない。君の行為に対して他者も行為で応えてくれる場合である。このようにある人の行為に他者が行為で応える時、そのような行為たちを相互行為と呼ぶ。僕たちが研究する社会は、このような相互行為で充ち溢れている。

たとえば君がコンビニで買い物をする時、君がお金を払うという行為をするのに応えて、コンビニの店員さんは君に例えばスイーツを渡すという行為をする。これも典型的な相互行為、いわゆる交換である。社会は無数の相互行為が積み上げられて出来ているのだ。

落合 仁司
Hitoshi Ochiai

[研究テーマ]
数理社会理論

社会構造

しかし社会は相互行為だけでは成り立たない。たとえば君は他者を愛する時、何らかの言葉、愛の言葉を他者に発するのではなかろうか。愛に言葉はいらないとばかり、いきなり無言の接触を試みれば、君は犯罪者になりかねない。愛という相互行為には言葉が不可欠である。ところで君も君が語り掛ける他者も日本語話者ならば、愛の言葉は日本語で語り掛けられるだろう。このとき君は日本語の文法と語彙に従って愛の言葉を発話し、他者は日本語の文法と語彙にしたがって君の言葉を愛の言葉として解釈する。すなわち愛という相互行為には、例えば日本語の文法と語彙、一般的には言語の構造が前提されている。

このことは交換という相互行為においても変わらない。交換は君が金を払わなかったり（窃盗）、コンビニの店員がスイーツを渡さなかったり（詐欺）することがないとする社会の規範、社会の構造を前提している。社会構造が先行することなしには、相互行為は成立しない。

社会科学の方法

社会を研究する学問、社会科学とは、この相互行為と社会構造の関係を研究する学問であると言うことができる。社会科学は多様である。社会構造を含めて社会の全てを相互行為の積み重ねに還元して理解できると考える方法論的個人主義という立場がある。これに対して相互行為を含む社会の全てが社会構造によって制約されると考える方法論的集合主義の立場がある。

しかしたとえば言語の構造、言語的社会構造と、言語を相互に発話する行為、言語的相互行為の関係を見るならば、ある時点における言語的相互行為が言語的社会構造に制約されるのは明らかである（そうでなければ発話は意味不明の音波に過ぎない）にも関わらず、長い時間が経過すれば、言語的相互行為の積み重ねが言語的社会構造を変化させる。たとえば平安時代の紫式部の日本語による愛の発話行為と、現代の少女の日本語による愛の発話行為を制約する構造は、相互に通約不能なほど異なっている。しかしこの差異は、少女たちの日々の発話行為の積み重ねがもたらした構造の変化なのである。

数理社会科学

したがって社会科学の方法として、方法論的個人主義の要素と方法論的集合主義の要素を同時に包摂した考え方が求められる。社会を相互行為に還元するだけでなく、かつ社会構造に吸収するだけでもない方法、そこに数学分けても圏論的方法の出番がある。

圏論的方法は、相互行為と社会構造をそれぞれ別個の圏と見て、この二つの圏の関係を、一つの圏からもう一つの圏への関手という考え方を駆使して検討する。このとき方法論的個人主義は相互行為の圏から社会構造の圏への関手として、方法論的集合主義は社会構造の圏から相互行為の圏への関手として表現することができる。この方法を用いると、相互行為と社会構造は「随伴」であるという驚くべき結果が導かれるのであるが、「随伴」という概念の意味も含めて、「数理経済」という僕の担当科目で、諄々と説いて行こう。